

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101610		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協 ほっとくりやがわ		
所在地	盛岡市厨川2丁目16-16		
自己評価作成日	平成25年1月4日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigekensaku.jp/03/index.php?action_kouhvu_detail_2012_022_kani=true&JizyosvoCd=0370101610-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっとくりやがわ」は一棟9名の家です。ゆとりのある時間と住居の中で、くつろぎながらその人らしい生活を送れる事を目的として、「ほっとできる」安らぎのある、温かい生活を送れるように援助します。入所者一人ひとりの生活リズムを大切に、その人らしさを尊重します。岩手高齢協の理念である「元気な高齢者をもっと元気に」「寝たきりにならない、しない」を合言葉に、出来るだけ自立支援を目的として、その人らしさを支えています。施設からの景色が良く、季節を感じられ桜の木や栗の木など一望でき時には、散歩できる環境となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 理念の共有と実践について、日々の取り組みの他に、見直しと再確認の話し合いを行い、強化を図っていること。
- 日々の業務の中で、利用者と職員は、食事の準備、後始末、ホームの掃除等、その人らしさを生かし、ゆったりと、一緒に作業が行えていること。
- 職員は、職員同士のチームワークが良く、利用者と同じ気持ちでケアが提供できていると感じていること。また、問題があり言いづらいことでも、ミーティングで相互に良くしようと話し合いでき、その都度解決できていると感じていること。
- 管理部門では、常勤、非常勤問わず、職員の研修に力を入れていること。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のミーティングや月1回のカンファレンス、朝、昼の申し送りを通じて、職員が意見を出し合い理念の共有を図り、利用者が和めるよう取り組んでいる。	月2回のミーティングは、休日の職員も参加し行われる他、月1回のカンファレンス、朝、昼の申し送りを通じて、理念の共有を図っている。今年度は、理念の見直しと再確認の話し合いを行っている。業務日誌に、理念を記載し、気付きを促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの隣に畑があって野菜等作って地域の方に見て興味を持って喜んで頂いている。また利用者には、収穫する喜びを提供している。また今年度からは、地域との交流の一環として保育園の園児と交流を実施した。	自治会に加入している。隣りにある公民館の行事のお誘いがある。ホームの畑で野菜等作っており、地域の方も気にしてくださっている。地域との交流の一環として、ハロウインの行事を保育園の園児を呼んで実施した。保育園からは焼き芋会に呼ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議の場を活用し、毎回テーマをもうけ保健、医療、福祉などの情報を発信し、又、包括、民生委員を通じて地域での問題点や困りごとなど情報を収集している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、利用者の状況や施設の現状、感染症や防災面など今後の課題を話し合い、それに対して意見を頂きながら、利用者の安全、安心を念頭に施設運営に活かしている。	運営推進会議では、利用者の状況や事業所の現状を報告し、感染症や防災面等の課題を話し合ったり、意見を頂いたりしている。また、前年度の外部評価の意見を踏まえ、地区の消防団長、民生委員、保育園長が委員として会議に参加して頂くようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は生保利用者の看取りの件で生活福祉課と連絡を密にして連携を取ることができた。又本年度はさらに行政の依頼により、生保2名入所に結びつけることができた。	盛岡市の介護高齢課・事業課・地域福祉課等の関係部署とは円滑な関係が築けている。また、生保利用者の看取りの件では、生活福祉課と連絡を密にして、適切に介護サービスを提供が出来た。また、市からの依頼で、生保受給者2名の入居を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進員を配置しており拘束しないケアに取り組んでいる。さらに言葉の暴力にもならないよう細心の注意を払っている。	身体拘束廃止推進員を配置している。拘束しないケアに取り組む、不適切な言葉による拘束に細心の注意を払っている。地区で、器物損壊(車)など不穏な事件がおきており、玄関の施錠は厳重にせざるを得ない。利用者の一人での外出等を防ぐため、玄関に、センサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はない。入浴の際、また更衣の時は皮膚状態の観察を密にし身体の変化がないかなど確認している。利用者に対しても、無理時しないケアに心掛けている。今年度の岩手県高齢者権利擁護推進員資料は現場のスタッフに提示している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 岩手高齢協ほっとくりやがわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名盛岡市社協の日常生活自立支援事業を活用し支援員と連携を取りながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方々の不安や疑問点など充分な説明を行い、入所時に同意書を取り交わし理解、納得は得られている。行政の指導により新規入所者より契約書の中に説明した日を記載するように作成し直した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、利用者の声や表情から思いを汲み取り、必要なものなど家族様の意見を取り入れプランに反映させている。推進会議には家族様の意見を大切に、運営に反映させるよう努力している。	家族から、冬用の靴下を届けるので、(暖かくして)歩かせてほしい(運動等の依頼)等の申し出があり、介護計画に取り入れたり、家族の意見で、隣の保育園とハロウィンを一緒にしている。他には加湿器の使用についても意見が出て対応している。推進会議にも、家族が委員として出席している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は役員として理事会に参加して、職員等の意見や提案、ミーティングで話し合ったことなど、本部の意見も反映できるようにしている。	管理者は役員として理事会に参加して、職員等の意見や提案、ミーティングで話し合ったこと等、事業所の意見も本部でも対応して貰えるようにしている。昨年、職員が提案したエアコンを設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は職場環境整備の一環としてエアコンを設置し、家族やスタッフに大変喜ばれた。人員配置や処遇改善に関しては、現在理事会などで見直しの方向で検討中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加できる研修会には内外を問わず参加を促している。高齢協としても本年度から年に3回、福祉部会主催で研修会を実施することになった。3回目の研修会は2月を予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のGH教会に加盟しており、ブロック会や定例会に参加して情報を収集し、職員のサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本年度の入所者で事前にケアマネと一緒に施設見学をして、自分の意志で入所に結びつき、生活やサービス提供がスムーズに行うことが出来た。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や来所の際は、話を聞く時間を取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の事業所のケアマネと連携し情報収集し家族の思いや本人の希望を尊重しケアに結び付けている。時にはご本人様の施設見学も受け入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の手伝いを通じて、話を聞いていたり、時にはスタッフが話題を振ってその場を和ませたりして雰囲気を作り信頼関係を構築するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	推進会議及び行事の際は連絡を取って参加を促している。又、体調に変化等見られた際は速やかに家族に連絡するなどして、利用者第一に連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親せき、友人の面会は以前に比べて増加しており、お互い良い関係は保っている。家族様に対しても本人の思い出の品など持ち込みも奨励している。電話の取次ぎにも積極的に関わっている。	家族、親戚、友人の面会は、以前に比べて増加している。利用者の同級生が訪ねて来ることもある。家族には、本人の思い出の品等の持ち込みを奨励している。電話もコードレスにして、自室で安心して会話出来るようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の意思を尊重しながら共有スペースで過ごすよう支援している。スタッフはその輪の中において孤立しないよう声掛け、見守りしている。お互い声を掛けあい良好な関係は築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際には必ず相談事があったら、いつでも相談に応じますと話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者や家族の会話を通じて思いなど引出し、ミーティングなどで話し合ったり、意思疎通の困難者の場合はアセスメントを活用し、ケアプランを作成し支援している。	家族からの聞き取りや3ヶ月毎にアセスメントを実施している。利用者との日々の会話や家族との会話を通じて思いを把握し、ミーティングなどで共有している。利用期間が長くなると、認知症も進み、少しずつ意思疎通が困難になってきている。床センサーを設置し、離床、居室の出入りを確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や日々の会話の中から、生活歴を聞きだし支援が継続できるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の会話、表情及び行動など観察し申し送りノートやチャート等に記載し、スタッフ間で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様の意見等をベースに、主治医、訪問看護との連携のもと、ミーティングを開催し、プランの作成や変更を行っている。	介護計画については、3ヶ月毎見直しをしている。計画作成担当者は、利用者や家族の意見を踏まえ、ミーティングをし、カンファレンスでプランの提示をしている。家族にはプランを提示し、了解を得ている。朝の申し送りの他、日常的に職員間でコミュニケーションをよく図り、情報共有に努め現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごとの状態や行動などチャート、申し送りノートに記載し、カンファレンスなどで話し合いし、再アセスメントを実施しプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	積極的に利用者を外に出すよう心掛けた。本年度は新たな試みとして、保育園児との交流を進める事が出来た。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 岩手高齢協ほっとくりやがわ

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域推進会議や地域の行事などに積極的にに関わり、最近では声もかかるようになった。民生委員や新たに警察の協力もいただけるようになった。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医や訪問看護とは常に医療連携はとれている。利用者は月1回の往診、訪問看護は毎週火曜日に来所して健康チェックを受けている。緊急の際は24時間対応して頂けるよう体制をとっている。	利用者は、主治医による月1回の往診と、訪問看護による週1回の健康チェックを行っている。緊急の際は、24時間対応して頂けるよう体制をとっている。検査等で受診する場合は、職員が支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護とはいつでも相談できる体制をとっている。訪問看護来訪時に1週間の様子を報告している。更に主治医にも状態報告して頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、頻回に面会に行くよう心掛けている。入院先の主治医や家族を通じて相談や調整等を行っている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制、看取りに関する指針を策定しており、本人、家族の希望を尊重している。本年5月スタッフ協力の下看取りを行った。	医療連携体制、看取りに関する指針を策定しており、利用時に本人・家族の希望を聞いている。昨年5月に、主治医の指導を得ながら、職員協力の下、看取りを行っている。主治医や訪問看護と連携を図り、24時間対応出来る体制がとられている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医の意見を基にミーティングを開催し注意事項を確認し急変に備えている。本年度は9月に救命講習を開催した。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災及び火災を想定し避難誘導訓練は年2回実施計画を立案している。その際は家族、近隣の住民にも協力して頂いている。今年度2回目の避難訓練は風邪が流行ったので3月に延期した。	年2回、避難誘導訓練を実施している。家族や隣家の方も駆け付けてくださり協力を得ている。訓練等終了後、話し合いを行い、訓練の反省事項をまとめている。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーに配慮して新たにカーテンを新調した。特に入浴、排泄の時は言葉使いや誘導、居室の出入りなど注意をして対応している。	利用者のプライバシーに配慮して、トイレや脱衣所のカーテンを厚手の物に新調した。特に入浴、排泄の時は言葉使いや誘導、居室の出入りなど注意をして対応している。床センサーを活用し、トイレ誘導などスピーディに行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の目線に立って声掛けし、その人に合った対応に努めている。又本人の意思に沿ったケアに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えを受け入れ、その人のペースに合わせたケアを実践するよう心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関しては清潔をもっとうにしている。外出する時などは、家族と連絡を取って着用する衣類を選んだりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中で嗜好を聞きだしメニューに取り入れている。利用者の嚥下や咀嚼を考慮した調理法や提供に心掛けている。盛り付けや後始末など利用者と共に行うようにしている。	献立は、1週間単位で職員が立てているが、新聞のチラシで利用者が旬の物を選ぶこともある。利用者の嚥下や咀嚼を考慮している。利用者も、台所に立って、盛り付けや茶碗洗いなどの後始末を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を提供している。食事チェック表を活用し、1日の水分、食事摂取量を記載し健康管理を主治医にも報告している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施することがホームではマニュアル化している。就寝の際は義歯洗浄も行っている。本年度は歯科検診も実施している。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 岩手高齢協ほっとくりやがわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら排泄誘導を行っている。チェックする事で個々に応じた排泄パターンや行動、表情を把握し誘導に役立っている。	排泄チェック表を活用しながら、トイレでの排泄誘導を行っている。言葉かけも、その時の雰囲気や状況に応じて(言葉を)選び、対応している。利用者の理解・認識状況に合わせて使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すため植物繊維の摂取やヨーグルトを毎日提供するように心掛けている。主治医と相談しながら、適宜腸の蠕動運動を促すよう下剤投与して排便に関わる疾病の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けをして入浴を促している。本人の希望で適温にしたり、無理時をしない雰囲気を作っている。又同性介助も実施している。	入浴は週2回で、汚れてしまった時は、シャワー浴をしている。夏場にもシャワー浴での対応もしている。声掛けをして入浴を促している。毎朝、陰部の清拭をし、清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせて誘導し、入床の際は一人一人更衣介助して安心して休める様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ファイルを作成し、用法や用量を確認し、誤薬しないよう努めている。著変時は速やかに訪看と連絡できる体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリで行っている事(盛り付け、お給仕、茶碗拭き、洗濯たみ、掃除等)を通じて役割を持っていただいている。気分転換に近隣の散歩や買い物等出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人より希望があった時は近隣を散歩し気分転換を図っている。又季節ごとに年間計画を企画を立てて利用者全員で外出している。	外出したい利用者の様子を観察し、外の空気吸おう、と誘い、散歩を兼ねて近所の八百屋で買物したり、気分転換を図っている。また、年間計画を立て、花見・いちご狩り・ぶどう狩り・もみじ狩り等、季節ごとに外出も行っている。利用者全員で外出している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 岩手高齢協ほっとくりやがわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人の利用者に関しては少額ではあるが金銭を自己管理している。外出などした際は買い物等出来る様援助に努めている。他の利用者に関しては立替金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、兄弟より電話が来た際は積極的に関わり取り次ぐようにしている。手紙が来た場合などは本人の了承をとり開封し読んであげる事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感と事故防止を念頭に環境整備するよう努めている。落ち着いて生活できるような装飾に気を配っている。	全館、自然蓄熱式24時間対流方式で、室温が適正に保たれている。共有の居間には、小正月の水木団子や節分の可愛い鬼の絵が飾られている。居間も、利用者と職員と一緒に掃除している。加湿器を整備し、インフルエンザ等の予防に努めている。今年度は、エアコンを設置した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地が良くほっとできる空間を提供するよう心掛けている。食席に関しても定期的に席替えを実施して固定化を防いでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して、利用者本人が落ち着いた生活を送れるよう、思い出の品や物を持ち込んでいただけるようお願いしている。	居室は、利用者と職員と一緒に掃除している。全館、自然蓄熱式24時間対流方式で、室温が適切に保たれている。家族との写真や、思い出の品が飾られている。利用者が退去の際、家具を寄付していかれたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部には自力で歩行できるように、手すりなど設置している。又、トイレ内に手すりを設置して転倒予防に努めている。		